学校教育におけるESDの実施状況と教員の意識

-中学校、高等学校に対する全国調査2020の結果から-



谷田川 ルミ(芝浦工業大学 工学部)・ 栗島 英明(芝浦工業大学 建築学部)

自己紹介

- 谷田川 ルミ(やたがわ・るみ)
- 千葉県我孫子市出身
- 専門は、教育学、社会学、教育社会学
- 芝浦工業大学 工学部 土木工学科/教職課程 に所属
 - 数学、理科、工業(高校)、情報(高校)の教員免許取得希望の学生の指導
- 研究
 - 持続可能な社会を支える人材育成のためのカリキュラムと評価手法の開発
 - ▶"全員活躍社会"を目指したキャリア教育の開発
 - ▶ 地域人材育成型キャリア教育の研究
- 研究フィールド
 - ▶ 種子島(鹿児島県)、米沢(山形県)など

1. 未来の社会を支える人をどう育てるか?

- "持続可能な開発のための教育"(ESD)の必要性
 Education for Sustainable Development
- 「持続可能な開発」とは何か?
 - ・持続可能(Sustainable) → 今だけではなく、ずっと続けていける
 - ・開発(Development)→ 今ある問題を解決して、市民全員が安心して 満足した暮らしができるようにする



将来、社会を支える人たちに負担を残したり、 押し付けたりすることをしないように、 今を生きる人たちの問題を解決していく、ということ



2. 新学習指導要領におけるESDの位置づけ

- 学校教育の動き
 - ▶ 新学習指導要領(2017、18年改訂)
 - → 小・中・高等学校の全ての教科において"持続可能な社会の創り手" の育成が目指されている

「<u>持続可能な開発のための教育(ESD)は、次期学習指導要領改訂の全体に</u>おいて基盤となる理念であると言える」(中央教育審議会、2016)

・例えば、中学校「理科」、「社会・公民」では・・・

理科:「自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、 持続可能な社会を作ることが重要であることを認識すること。」

公民:「<u>持続可能な社会を形成するという観点</u>から、私たちがより良い社会を 築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせ る。」(文部科学省, 2018)



2. 新学習指導要領におけるESDの位置づけ

- 新学習指導要領で求められているもの
 - ① 教科横断的な教育
 - ② 主体的、対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
 - ③ 探究活動の重視
 - ④ 地域社会との連携
- → ESDの中心的なテーマ(環境、防災、エネルギー、気候変動、貧困、平和、 国際理解など)と親和的
- → 地域学習、総合的な学習/探究の時間などを利用したESDの推進の可能性

3. ESDの新しい動き

- 「持続可能な開発のための教育: SDGs 実現に向けて(ESD for 2030)」
 - ▶ 2020 年~2030 年における ESD の国際的な実施枠組み
 - 2014~2019年の目標であった「ESDに関するグローバル・アクション・ プログラム(GAP)」の後継
 - ▶ ESD の強化とSDGs の17の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正 で持続可能な世界の構築を目指す
- 第2期ESD国内実施計画(2021年5月)
 - ▶ オールジャパンで我が国のESDを推進するとともに、世界のESDをリード
 - ESD実現のため多様なステークホルダー(自治体、NGO/NPO、企業、研究・教育機関等)と協働
 - ESD for 2030を踏まえ、ESDがSDGs達成のために貢献することを明確化

第2期ESD国内実施計画

- オールジャパンで我が国のESDを推進するとともに、 世界のESDをリードしていくために、関係省庁が連携 し、ESD国内実施計画を策定。
- 次期計画では、「ESD for 2030」の理念を踏まえ、 ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を 初めて明確化。ジェンダー平等、2050年カーボン ニュートラル、AI・DXの推進等を踏まえつつ持続可能 な社会の創り手を育成。
- ESD実現のため多様なステークホルダーを巻き込む 方策や、「ESD for 2030

分野ごとに国内の各ステ を記載(具体的には以

1. ESDを実践するた

- 政府は「ユネス」
- 国内のみならず
- 2. ステークホルダーご



Advancing policy

1. 政策の推進

- ·SDG s 関連政策へのESDの反映
- ·教育政策へのESDの位置付け
- ・地球規模課題に係る施策における ESDの実施

等について記載。



0

経緯

- ○ESD (持続可能な開発のための教育) は、2002年に我が国 が初めて提唱。その後、ユネスコを主導機関として国際的に推進。
- ○2014年、ESD世界会議を国内(愛知県·名古屋市/岡山市)に おいて開催。
- ○2015年、国連においてSDGsが採択。
- ○SDGsの全てのゴールの実現への貢献により、公正で持続可能 な世界を目指す[ESD for 2030]という新たな国際枠組みが国 連総会において採択。

をキックオフとして「ESD for

なネットワークを強化。

日本国内においても ESDは新しいフェーズへ



学校教育における普及の地盤はどうか?



Community

2. 学習環境の変革

- ·学習指導要領に基づくESDの実施
- ·ICT化を通じた教育環境の充実
- 機関包括型アプローチの推進に向けた ネットワークの形成・強化 等について記載。

3. 教育者の能力構築

- 教員等に対する研修等
- ·ESD推進の手引の作成·活用
- ・各機関においてESDを実践する者の育成 等について記載。

4. ユースのエンパワーメントと 参加の奨励

- ・ユース同士のコミュニティづくり
- 国際的な議論にユースが参加できる環境づくり
- ・青少年の交流の推進
- 等について記載。

5. 地域レベルでの 活動の促進

ESDによるローカルSDGsの推進

等について記載。

・全国的なESD支援のためのネットワーク機 能の発揮

4. ESDアンケートの概要

• 調査の必要性

- ▶ 新しいフェーズに入ったESD・・・ 持続可能な社会の実現のために重要性を増す
- ▶ 新学習指導要領におけるESDの位置づけ・・・ 全学校におけるESDの理念の普及
- → 学校教育におけるESD実施状況、教員の実践の状況等の現状把握が必要

● 調査概要

対象: 全国の国公私立の中学校、高等学校(義務教育学校、中等教育学校含む)15,294校から9,000校をランダムサンプリングで抽出

▶ 方法: 郵送法にて送付

有効回答数: 2,456校

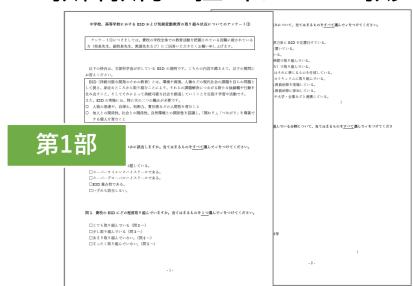
▶回収率: 27.3%

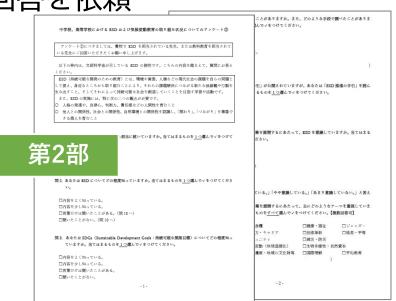
表 サンプルの構成(設置主体×学校種別)

	設置主体				合計(校)
	公立	国立	私立	その他	
中学校	1309	12	44	4	1369
義務教育学校	16	1	0	0	17
高等学校	715	1	163	0	879
中等教育学校	7	1	5	0	13
その他	20	0	91	0	111

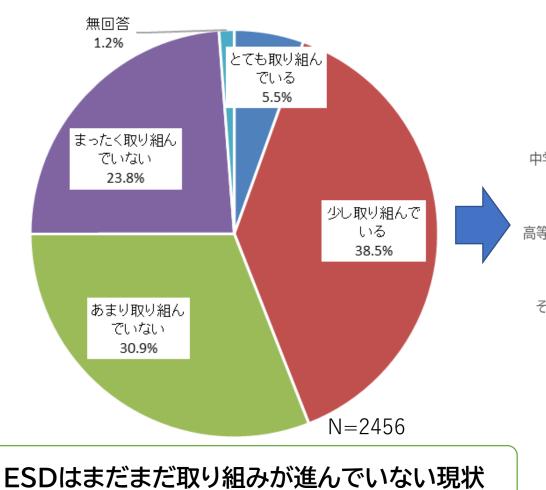
4. ESDアンケートの概要

- アンケートの構成
 - 第1部 学校調査
 - →学校全体でのESDの取組状況についての調査票となっており、学校全体の 教育活動を把握している管理職(校長、副校長、教頭)に回答を依頼
 - 第2部 教員調査
 - →教員によるESDの取組状況についての調査票となっており、ESD担当教員、 または教科教育を担当している教員に回答を依頼

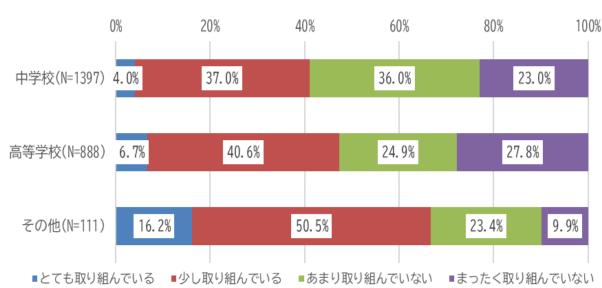




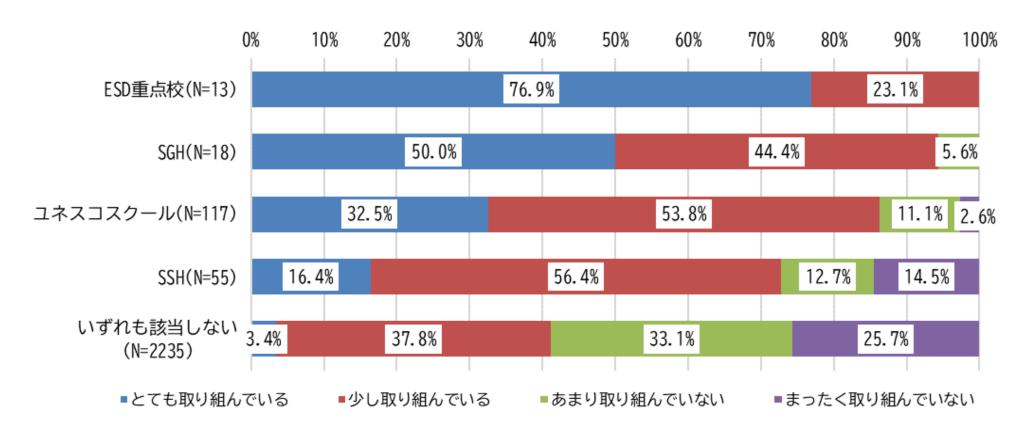
• ESDの取組状況



・高校のほうが取組がやや進んでいるが、 二極化している?



• 指定の有無別 ESDの取組状況



指定校ではない多くの学校において、きわめてESDの取組がなされていない状況

● ESDで取組んでいる内容(回答割合の高い順)

ESDで取り組んでいるテーマ	(%)
国際理解	43.1
減災・防災	42.8
気候変動(地球温暖化)	41.7
資源・エネルギー	40.8
働き方・キャリア	40.8
健康・福祉	38.6
平和教育	34.3
持続可能な地域	30.9
水・食糧	28.6
持続可能な生産・消費	27.6
ジェンダー	26.5
生物多様性・自然資本	25.8
コミュニティ	25.0
格差・平等	24.0
貧困	22.2
世界遺産・地域の文化財等	21.3
文化的多様性	19.7
技術革新	12.9
その他	3.0
無回答	1.6
	N=1841

- ・「国際理解」「減災・防災」が多い
- ・「気候変動(地球温暖化)」も取組として多い傾向がある
- ・「技術革新」「文化的多様性」「貧困」などは取組が少ない

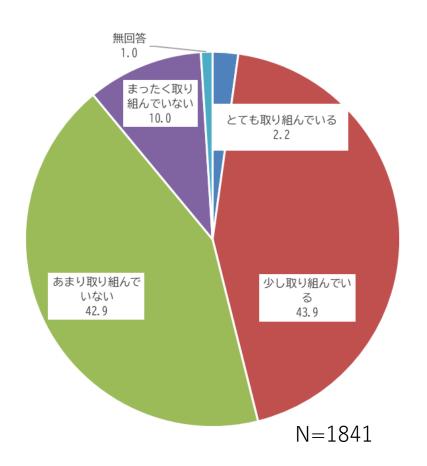


総合学習/探究、教科教育、または学校行事などと結びつけやすいテーマでの取組が多い…?

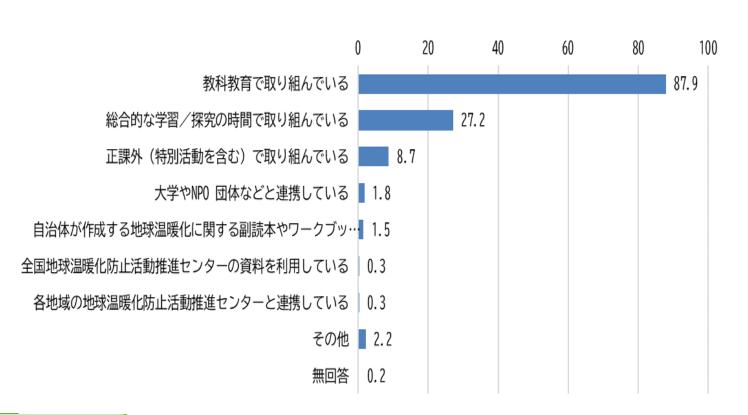
Q ESDを学校教育のどこで扱っているのか?

- ・「総合的な学習/探究の時間」・・・ 65.3%
- ⋅「教科教育」・・・ 63.9%
- ·「特別活動」· · · 22.2%

気候変動教育の取組状況

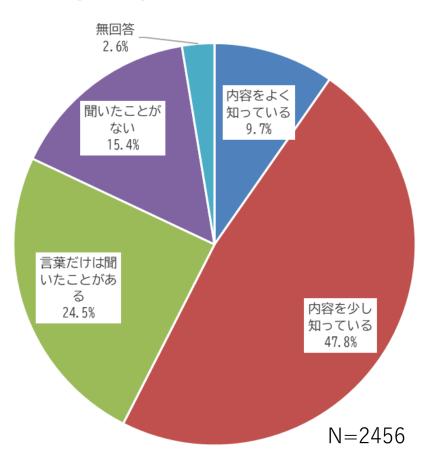


・総合学習/探究よりも教科教育の中に気候 変動教育を取り入れているケースが多い

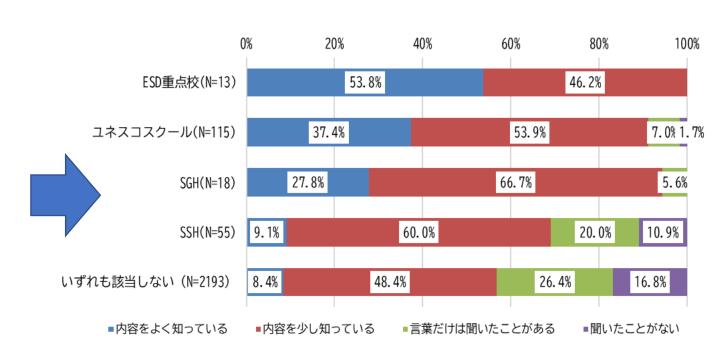


気候変動教育には半数近くの学校が取り組んでいる

• ESDの認知状況

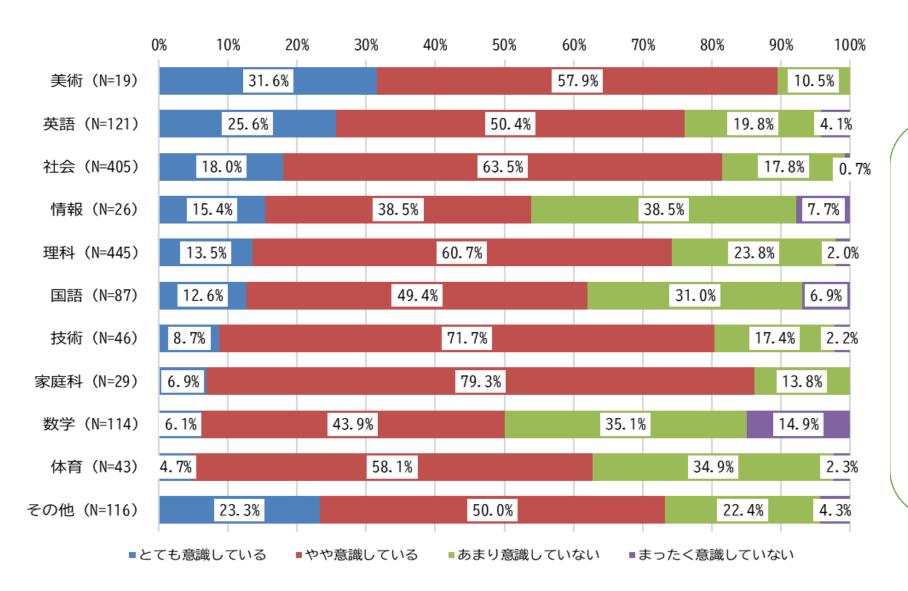


指定校ではない学校の教員の認知度は低い状況・・・



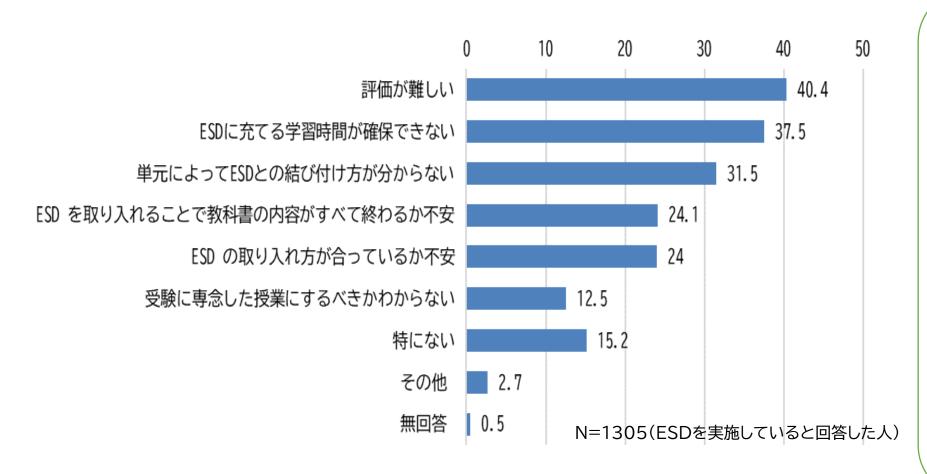
半数近くの学校の教員が「ESDの内容をよく知っている」「少し知っている」と回答

● 教科別 授業内でのESDを意識して取り入れているか



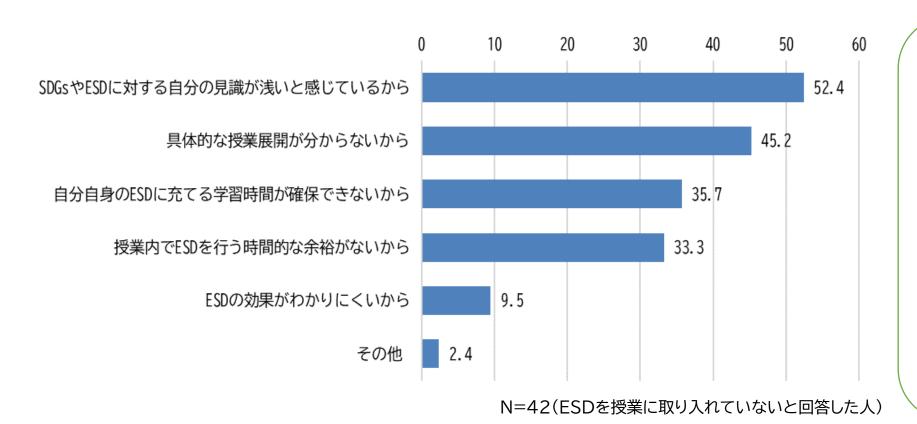
- ・美術、英語、社会、情報、理科の順で「とても 意識している」が多い
- ・「やや」を入れると「技術」「家庭科」でも授業でESDを意識している割合が高い
- ※ 美術、情報、技術、家庭科はサンプルが少ないので注意

● ESDを授業に取り入れる際の困りごと、悩みごと(複数回答)



- 「評価が難しい」
- → 汎用的能力の評価方 法に悩む教員が多い?
- ・「学習時間の確保」 →多忙な教員にとって、 担当教科の授業準備に 加えてESDを勉強する 時間を取ることは難しい
- ・「単元との結び付け方が分からない」
 →上記と関連して、ESDを理解した上で、授業に取り入れることのハードルの高さを感じている

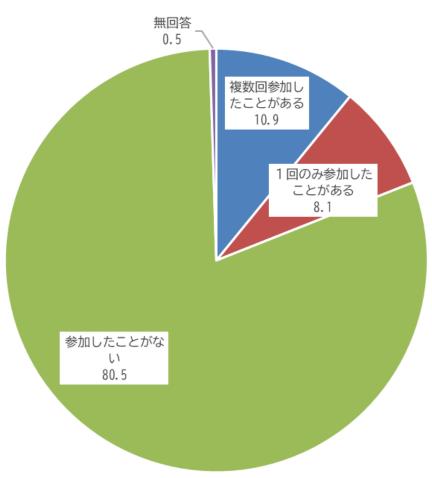
● なぜESDを授業に取り入れられないのか(複数回答)



- ・ESDを取り入れていな い教員
- →ESDに関する知識、 ESDを取り入れた授業 展開に対する不安感が 大きい
- ・多忙による学習時間確保、カリキュラムの過密による授業時間確保の困難・・・

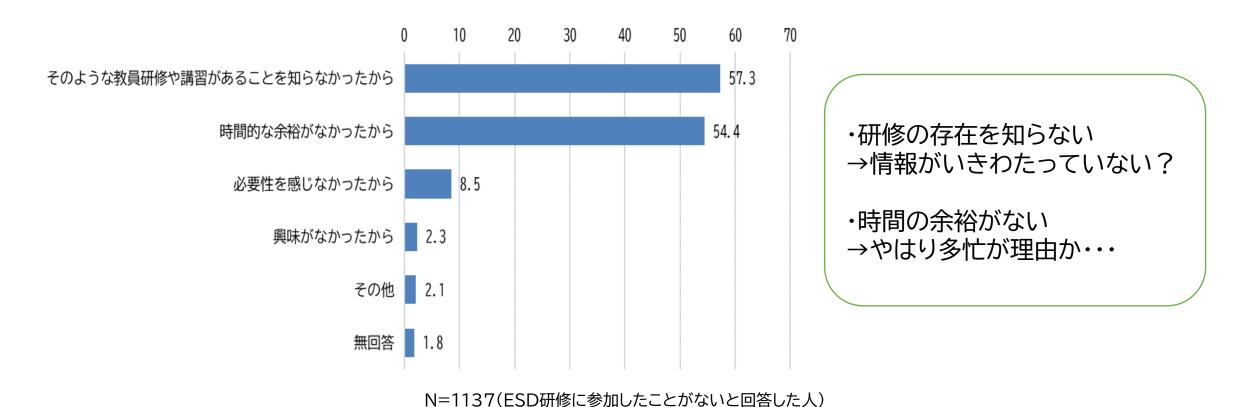
ESDを学校教育に浸透させるためにはこれらの課題解決が必要!

● ESDに関する教員研修の経験(複数回答)

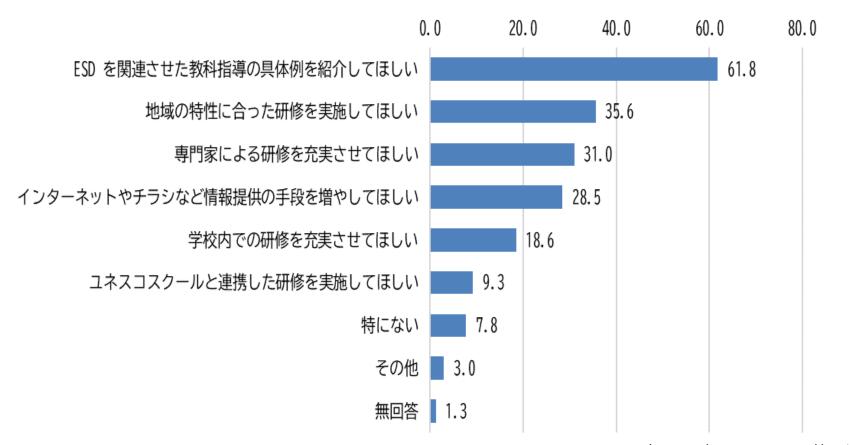


・ESDに関する教員研修に「参加したことがない」が8割を超える

● ESDに関する教員研修を受けなかった理由(複数回答)



情報提供の種類・手段の再検討、忙しい教員が参加できる工夫が必要



- ・「ESDを関連させた教科 指導の具体例の紹介」 →ESDを取り入れない理 由にも上がっている項目。 具体的な事例紹介が求め られている
- ・「地域特性との関連」、「専門家による研修」 →地域の特色、地域ごとの データなど、専門的な知識 も求められる。探すのにも 時間がかかる・・・
- ・研修の情報提供
- →複数の手段での周知の 必要性

N=1412(ESDを知っていると回答した人)

7. まとめ

- 学校教育へのESDの導入状況
 - 重点校、指定校などに偏っている。指定校となっていない大半の学校に おける導入は進んでいない
- 導入が進まない理由
 - > 教員の多忙
 - カリキュラムの過密化
 - ▶ ESDの内容や専門知に対する心理的ハードル(難しそう、複雑)
 - 評価の難しさ

これらの課題を解決する方策をどのように考えていくか、どうサポートしていくか 我々の取組の一例を紹介いたします。